

「リニア計画」は不安だらけ…このまま着工でいいのでしょうか？

建設
残土

大半が行き先未定とは大問題

国は着工認可すべきじゃない

国会論戦

住民の不安代弁の先頭に **日本共産党**



●参議院国土交通委員会

辰巳孝太郎議員が質問

リニアの工事で大量に掘り出される土砂。ところが、その処理方法がほとんど決まっていないという重大事態が判明。このまま着工認可などできないと、日本共産党は厳しく追及しています。

●残土処理 決まっているのはたつたの2割

JR東海が国に出した「環境影響評価書」。
その中で残土の行き先、処分先は何%決まっているのか。辰巳議員の質問に政府は「残土全体5680万立方mの22%、1260万立方mは置き場、再利用が想定されている」と答弁しました。
「評価書」を急いで出し「今秋着工」へ
ひた走るJR。しかし残土の大半は行き先未定という重大事態です。

同時期にどういう公共事業等があるか想定しにくく、地権者などへの接触も不適切と考えられるので、新たな残土置き場の「位置、規模等の計画を明らかにするのは困難」…これがJR東海の言い分です。

●国は国民への責任はたせ

JRは聞く耳もたず

行き場のない大量残土が放置されでもしたら暮らしにも重大影響が…こんな状態のまま着工などできるのか。「知事意見がどう反映されているかしっかりと検証する」という国交相に対し、辰巳議員はこう追及しました。
「しっかりと検証」というのが、評価書には自治体から声が

上がり知事の意見が反映されていないと不満も次々出ている。ほとんど国会で審議されていないし、JR東海は自治体や住民の声を聞く姿勢が見られない。このような事業に、国土交通省が着工のお墨付きを与えてはいけないということをも、強く求めたい。

切実な願い届け政府交渉

国はJRの横暴勝手を許さず国民の願いにこたえよ。
日本共産党は、沿線各県が

協力して6月12日に政府と交渉。暮らしと地域を守るため全力をあげています。

日本共産党

暮らしと地域を守るため力を合わせましょう

岐阜県民報

2014年6月 号外 発行 / 岐阜県民報社 岐阜市千石町1-12 ☎058-265-3873

日本共産党の見解・主張などについて紹介します。